

# ジョイント V 字樹形によるナシ「王秋」の早期成園化

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

## 1 部門名

果樹—ナシ—整枝・せん定

## 2 担当者名

佐藤寛人、額田光彦

## 3 要旨

食味が優れる極晩生品種「王秋」は、ナシの品種構成の改善に向けて、県内でも導入が進みつつある。そこで、当品種の普及拡大を図るため、早期成園化技術であるジョイント V 字樹形について実証したところ、定植後 3～4 年目で成園並の収量（目標収量 4,000kg/10a）が得られた。

- (1) 定植後 3 年目から収量が増加し、4 年目には 10a 当たり約 4,600～6,100kg の収量が得られ、果実の大きさは 570～630g と、概ね標準的な果実が生産された（図 1）。
- (2) 苗木の長さに応じて植栽距離を調整したところ、1 年生苗は 0.9～1.2m、2 年生苗は 1.4～1.8m 間隔の植栽となった。また、定植後 2 年目には必要な側枝本数が確保され、以後、側枝の生育が進むにつれて収量が増加した（表 1）。なお、花芽の着生は、2 年生苗で優れる傾向が認められたが（表 2）、収量や果実品質については、苗木の違いによる差は認められなかった。

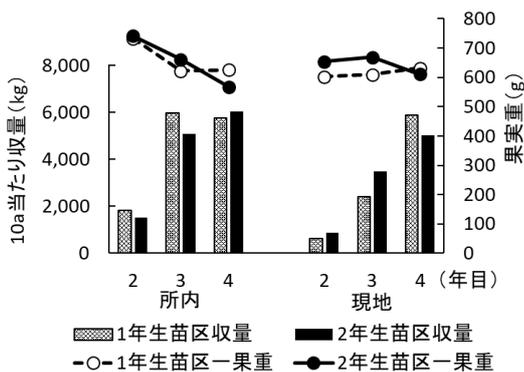


図 1 所内及び南相馬市現地ほ場の 10a 当たり収量と果実重の推移

表 1 所内及び南相馬市現地ほ場の樹体生育

	幹周 (cm)	平均主枝長 (m)	平均側枝数 (本/m)			平均側枝長 (cm)			
			2年目	3年目	4年目	2年目	3年目	4年目	
所内	1年生苗	14.9	0.9	9.7	9.3	9.4	102	156	181
	2年生苗	16.6	1.4	8.4	9.4	9.1	97	131	178
現地	1年生苗	14.7	1.2	8.2	7.3	7.4	114	166	232
	2年生苗	16.7	1.8	5.9	6.0	7.0	108	156	211

表 2 所内及び南相馬市現地ほ場の花芽着生率

		花芽着生率 (%)			
		1年枝	2年枝	3年枝	4年枝
所内	1年生苗	43.4	64.6	65.9	52.8
	2年生苗	56.5	74.9	75.9	59.2
現地	1年生苗	14.5	66.7	61.1	53.9
	2年生苗	39.1	66.2	68.6	50.4

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～5 年度
- (2) 研究課題名 ジョイント V 字樹形の導入による果樹の早期成園化と省力化  
〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業(JPJ000418)〕  
〔農林水産分野の先端技術展開事業(JPJ009997)〕

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 南ら, ナシジョイント V 字樹形定植 2 年目の果実生産性, 令和 2 年度参考となる成果